

インクルファンド助成団体の活動を紹介します こーゆうネットワーク (あきる野市)

サポーターの
寄付が活かさ
れています！

2008年6月あきる野こーゆう(高次脳機能障害者と家族の会)発足、活動は家族会中心でした。数年後、家に居る障がいのある方を思いサポートを考えました。認知グループワーク、余暇活動、出前カフェとそれぞれ月1回程度の活動を広げました。これでは足りない、家族会有志が継続的な居場所として、就労継続支援B型事業所を作ることになりました。足掛け3年の準備の末、東京都の指定を受けて2020年2月こーゆうハウスをオープンすることができました。

開かれた施設を目指し、高次脳機能障害への理解の促進に努めます。そして、あきる野らしく種を採取し蒔き育て収穫し、それを調理しレストランで提供し、残菜はコンポストへと循環型社会を目指しています。なんといっても利用者さんが明日も行こうと思える施設となるよう「共に支えあい共に生きる」をモットーに支援しています。

お仕事も厨房、カウンター、ホール、ボードゲームカフェ、手作りカフェ、売店、PC入力、農業等たくさんあり、利用者会議、工賃向上会議、スキルアップセミナーを通して、コミュニケーションをとり、どうしたら売り上げが伸びるのか考え、通所する中で、就職

の為の体力を作り、どんな仕事ができるのか、何を支援していただければどんな仕事に従事できるのか、就労への道のりをサポートします。

最後に1日10円の寄付をされているサポーターの皆様、そして推薦して下さったあきる野地域協議会様、インクルファンドの助成を受けましたことに深く感謝申し上げます。

一般社団法人こーゆうネットワーク
藤原みどり



新型コロナウイルス感染防止のため、レストランは休業、テイクアウトのお弁当とコーヒーを始めるも、自粛し、マスクづくりと畑体験をしていました。

就労継続支援B型事業所 こーゆうハウス
開所日：月曜日～金曜日 開所時間：10:00～16:00
お問合せ：TEL042-533-2786 FAX042-518-7737
所在地：あきる野市雨間322-12 赤坂ビル
Email：Email:kouyuuhouse2020@gmail.com

サポーター募集中！あなたの1日10円で、つながり・支えあう豊かな地域社会をつくらう！

サポーターとは『地域ごとに必要な機能をつくり、市民が参加し利用するまちづくり型福祉』をめざし、豊かな地域社会づくりにつなげるために、インクルーシブ事業連合の運営やインクルファンド助成の財源を寄付で支える、個人または団体のことです。

<会費> 個人3,600円/年 団体10,000円/年

※生活クラブ組合員の場合、お申し込みいただくと300円/月を共同購入代金と一緒に引き落とします。(中止のお申し出がない限り、引き落としは継続されます)

★サポーターになるには、下記の申込書をファックスまたは郵送していただくか、WEBページのお申し込みフォームからご登録ください。URL <https://www.inclusive-gr.com/supporter/>
郵送先：〒156-0051 世田谷区宮坂3-13-13 3F 生活クラブ・東京内 インクルーシブ事業連合
ファックス：03-5426-5203 電話：03-5426-5207



お名前			
ご住所	〒		
電話番号	メールアドレス		
申し込み口数	個人 () 口	・・・1 口	3,600 円/年
	団体 () 口	・・・1 口	10,000 円/年

* ご記入いただいた個人情報は、インクルーシブ事業連合のサポーター登録およびお知らせの送付に限り使わせていただきます。

つながって実現！ 市民主体のまちづくり型福祉

インクルーシブ通信

2020年6月
VOL. 32



発行：生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合 発行責任者：田中のり子 <http://inclusive-gr.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-13-13 生活クラブ・東京内 TEL 03 (5426) 5207 FAX 03 (5426) 5203

インクルーシブ事業連合 2019年度の活動報告

●出前講座

市民版地域福祉計画の策定支援を目的として、運動グループの助成や融資のしくみを紹介するファンド説明会など4つのテーマで出前講座の開催を呼びかけ、ブロックや地域協議会の主催により3テーマ・5か所で実施しました。



北東京生活クラブでは「まちづくりの学校」と題して3テーマで実施

●福祉ツアー「シェアキッチンで居場所づくり」

地域の資源をつなぐ拠点になり得る様々な居場所づくり・拠点づくりの事例を学ぶことを目的として、今年度は食でつながる居場所づくりをテーマに福祉ツアー(見学会)を実施。居場所づくりに関する組合員や、縁がわわーカーズ等で活動しているメンバーなど13人が参加しました。



NPO 法人ワーカーズどんぐりがミニデイやカフェ等の活動を行うテンミリオンハウスくるみの木(武蔵野市)

●安心ネットワーク構想連絡会

昭島・国分寺・町田の市民版地域福祉計画と実行に向けた取組みについて活動状況を共有し、参加した地域協議会の活動についても情報交換しました。



国分寺・昭島・町田の各地域協議会が事例を報告

●共に働く

2018年度にまとめた、共に働く場を広げるための構想の説明会をブロック理事会や地域協議会で実施し、地域に共に働く場を身近に増やしていくこと、人や情報をつなぐコーディネート機能づくりの創設を働きかけました。

●事業所指定寄付

働きづらさを抱える人とともに働く運動グループ事業所への支援として実施。登録した2団体に寄付を募り157,500円が集まりました。

●子育て支援フォーラム2019

～子どもと親のSOSを受け止める～

子どもへの虐待防止をテーマに実施し、子育て世帯が抱えている困難を、地域の様々な資源が連携して支える重要性を発信しました。



講師：子どもの虐待防止センター 天野智子さん

子育て支援を行う運動グループ団体のメンバーによるパネルディスカッション

●東京都への予算要望

2020年度の東京都予算に対して運動グループの現場からの声に基づく意見や提案を入れた予算要望を提出しました。また、東京都の就労支援ソーシャルファーム条例についてヒアリングを行いました。

●インクルファンド助成

2019年度第1回・第2回助成では5団体に対して、合計530万円の助成を決定しました。(第2回助成は新型コロナウイルス対策のため選考委員会を4月に延期したため、2020年度予算で執行。)



(特・非) コンチェルティノ (一・社) こーゆうネットワーク

2019年度第2回インクルファンド助成選考結果

以下の2団体に合計3,677,787円を助成しました。

- 一般社団法人 Calin 昭島：重症心身障害児(者)支援事業の立上げ/2,970,000円(車輛購入費)
- 八王子たすけあいワーカーズ バードハウス：たすけあいワーカーズ立上げ準備費用/707,787円(備品購入費)

【インクルーシブ事業連合構成団体】生活クラブ生協・東京/NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT) 社会福祉法人悠遊/東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合/東京・生活者ネットワーク/東京 CPB(コミュニティバンク) 認定 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社/認定 NPO 法人まちぽつと/環境まちづくり NPO エコメッセ

2019年度 安心ネットワーク構想連絡会

インクルーシブ事業連合では、2015年に市民版の地域包括ケアシステム「市民による市民のための安心ネットワーク構想」をまとめました。構想のポイントは、誰もが安心して住み慣れた地域の中で暮らすことができるまちをつくるための地域資源のネットワークづくりとコーディネート機能づくり、そして地域に足りないしくみづくりです。その構想を実現するために地域協議会ごとに「市民版地域福祉計画」を描くことを支援しています。

2/12に行なった安心ネットワーク構想連絡会では、昭島・国分寺・町田の計画や活動事例を共有し、意見交換を行いました。

昭島地域協議会では、2018年度までの第1期計画を総括し、第2期計画を策定しました。第1期の計画に基づき、2016年に一般社団法人カラシマ昭島による重症心身障害児の児童発達支援及び放課後等デイサービス事業が開設されましたが、受け入れ枠が不足していること、学校卒業後の受け入れ施設がないことが課題でした。そこで第2期計画では、放課後等デイサービスと生活介護の多機能型事業所の開設を掲げました。インクルフアンドも活用しながら立上げの準備をすすめ、5/1より事業をスタートしています。

国分寺地域協議会では、2017年に次期3か年

(2018~2020)計画策定にあわせてアンケートを実施してワークショップを開催、3か年計画および市民版地域福祉計画を策定しました。居場所づくり、子どもの居場所などを盛り込んだほか、まちづくりのコーディネイト機能として人材バンクや空き家のコーディネイト、防災拠点などの視点を盛り込んでいます。

町田地域協議会では、地域協議会のもと「たすけあいまちづくり(たすまち)を考える会」を立上げ市民版の実行計画づくりをすすめています。素案のテーマは「高齢の方、高齢にさしかかった方の出番をつくること」「未来の社会の担い手である子どもを育てていくこと」。生活クラブ館を活用した活動展開のほか、働きづらさを抱える人と共に働きかけづくり、高齢者、障害者、シングルマザーなどが混じって暮らす住宅づくり、まちなほっとスペースづくりなどが掲げられ、それらを推進するうえで欠かせないコーディネイト機能づくりについても盛り込まれています。



参加者との意見交換では、地域資源をつなぐコーディネイト機能づくりなどについて、それぞれの考え方を共有しました。

インクルーシブ事業連合 事務局 平岡晴子

インフォメーション



生活クラブエッコロ子ども基金フォーラム
地域の子どもの地域で見守る



日時：2020年9月5日(土) 14:00~16:00 (開場 13:30)

会場：生活クラブ館 地下スペース1・2 参加費：無料

(世田谷区宮坂3-13-13 小田急線 経堂駅より徒歩3分)

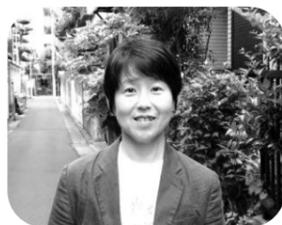
第1部 14:00~15:25

講師：栗林知絵子さん(豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)

第2部 15:25~16:00

生活クラブ運動グループ団体の活動事例紹介

*今年度よりスタートする「生活クラブエッコロ子ども基金」は、都内で子どもや子育て家庭の支援を伴走型で行う団体の活動や事業を支援します。基金には、組合員どうしのたすけあいをすすめ、地域の福祉を応援してきた「エッコロたすけあい制度」の掛け金の一部を活用します。



お問合せ・お申込み先

生活クラブ生協・東京
たすけあいネットワーク事業部
TEL 03-5426-5207
FAX 03-5426-5203

都議会に「生活者の目」を増やそう

新型コロナウイルスの流行により、私たち市民はこれまで経験したことがない生活を送っています。公共施設が閉じて市民活動も休止を余儀なくされ、空き家や住まいを使った居場所も開くことが難しくなっています。

東京という超人口密集地の弱点が露呈されていますが、その中で行政サービスというフォーマルなくみだけでなく、まちの中で人が集い活動したり食べたりというインフォーマルな活動が市民の元気を創り出していることをあらためて感じます。

感染リスクが高いとされる高齢者は早い時期から外出を抑えられ、子どもたちも休校措置で登校できず、障がい者の居場所や通所サービスも閉じているところがあります。家族だけが頼みとなった生活の中で、孤独や心細さを感じている人たちはどれだけいるのでしょうか。この事態を「大変な時だからそれくらい我慢」ということにせず、市民活動の重要性を再認識し、さらに強く温かい地域社会を再構築していく大きなチャンスとして前向きにとらえていきたいものです。

市民による事業はその規模の大小にかかわらず、その重要性への社会的な認識は残念ながら必ずしも高くありません。非常事態宣言による事業者への休業に対し、東京都は「感染拡大防止協力金」として個人事業主や中小零細企業の休業に一時金を出

インクルーシブ事業連合構成団体の活動を紹介します

東京生活者ネットワーク

しますが、当初NPO法人は対象になっていませんでした。それを粘り強く対象とするよう働きかけたのは運営している市民たちであり、パイプ役となった生活者ネットワーク都議会議員でした。

議会の中に市民生活の実態を知っている議員がいるということは、経済優先ではない目線で大事な問題を見逃さない目があるということです。

アベノマスクの騒ぎやPCR検査体制の課題など、コロナの問題で政治の機能も問われています。7月には東京都知事選挙も行われる予定ですが、同時に実施される狛江・調布選挙区での都議会議員補欠選挙にワーカーズで活動するドウマンジュ恭子がチャレンジする予定です。「生活を見つめる目」を都議会に増やし、コロナ収束後の豊かな市民社会を共につくりましょう。



都庁の前で 左から木下やす子調布市議、ドウマンジュ恭子、山内れい子都議、松崎とし子狛江市議



いつも明るく、地域の声に耳を傾けながら活動中!

協同労働でつくる協同組合型地域社会づくり

ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン(WNJ)第14回全国会議 in 愛知

2020年2/22~23、第14回全国会議 in 愛知「協同労働でつくる協同組合型地域社会づくり」へえ~そうだったんだ ワーカーズ・コレクティブ みんな悩んでいながらあるんだがね... が初めて愛知県名古屋市で開催されました。

今回は社会における課題を共有すると共に、ワーカーズ・コレクティブの社会的使命と働き方の価値を確認しあい、運動の拡がり事業の継続発展と一緒に考える回とし、開催されました。



22日の基調講演では、(特・非)地域と協同の研究センター専務理事の向井忍さんが、「人口減少社会」における持続可能性と協同労働の役割~をテーマに、間違いなく進んで行く「人口減少社会」のもとらす人口・社会の再生

産構造の崩壊による現代社会のルールや理念の危機と協同組合の役割について講演。また、地域の人間関係と資金を循環させ、協同で解決するワーカーズ・コレクティブの意義や、現在法律制定に向け動きが進んでいる「労働者協同組合法」の必要性と、

この法律がワーカーズ・コレクティブの力になるとエールをいただきました。基調講演に続く実践報告では東京、埼玉、愛知から実践報告がありました。



23日は7分科会に分かれ、東京ワーカーズは「共に働く」「食でまちづくり~食を大切にすることは人を大切にすること」「実態調査から描くワーカーズ・コレクティブの継続と発展」「生協活動から地域活動へ」を担当し、活動報告を行いました。

新型コロナウイルスの影響を受けながらの開催となりましたが、2年に1度開催するこの会議は、全国のワーカーズメンバーと交流ができる貴重な機会です。今回も全国のワーカーズと共に民主的なガバナンスと社会的ミッションや意義について改めて確認することができました。



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 小柳智恵
←武將に扮し懇親会のオープニングを盛り上げた愛知のメンバー